

横浜市立矢向小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

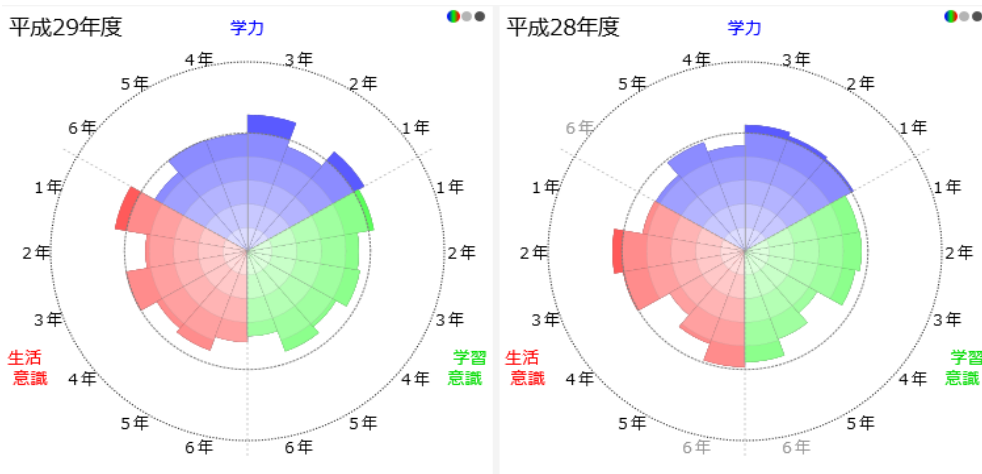
| 学校経営中期取組目標 | |
|--|--|
| ○全職員が自立とチームワークを基盤としながら、主体的に学校経営に参画し、「チーム矢向」として、チーム力を生かして「活力」「魅力」ある学校づくりを推進します。 | |
| ○基本的な学習内容の定着並びに学力の向上に向け、授業改善を通して、授業力の向上を目指します。 | |
| ○人権尊重を基盤にした教育活動を通して、「自尊感情」や「思いやりの気持ち」をもてる児童の育成を目指します。 | |
| ○家庭・地域・関係機関や公共施設と交流・連携を深め、開かれた学校づくりを推進します。 | |

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|-----------------|--|---|
| 確かな学力 (学習指導) | 基礎基本の定着に重点を置くとともに、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく中で表現力の育成を目指す。 | ①全学年で、複数指導体制をとり、基礎・基本の定着を目指す。 ②地域の教育力を活用した学習や体験的な学習を展開することで、子どもが主体的に学ぶ力を育成する。 ③体育科重点研究を通して、認め合い、学び合いながら、協働的に問題解決する力を育成する。 |
| 担当 | 教務部 重点研究部 | |

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



学力の項目で1横浜市の平均を上回る学年と横浜市の平均に迫る学年があった。

国語科は基礎が向上し横浜市の平均を上回る結果となった。社会科、理科においては基礎・活用ともに横浜市の平均を上回る結果となった。算数科において基礎・活用ともに横浜市の平均に迫っている。学習意識が高い学年は学力も向上していることがわかる。

生活意識では、例年と同様、「あいさつを自分からしていますか」という質問では市の平均を上回り、学校のきまりを守っていますか」という設問は市の平均とほぼ同じの割合となっている。「矢向小のきまり」をスタンダードに学校と家庭が連携して生活意識を高めてきた成果と考えられる。

学習意識は、各教科「勉強が好きか」「勉強が大切だと思うか」という質問に対する数値が高い。学び合い」を重視した授業改善が学力の向上につながったと捉えることができる。しかし、各教科ともに「相手意識をもって伝えている」という設問は横浜市の平均より低い結果となった。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：「言語」は身につけている学年が多く、「書くこと」の数値も上昇している。活用には課題が残る。
- 算数科：基礎、活用ともに高まってきている。
- 社会科：基礎、活用ともに高まってきている。
- 理科：基礎、活用ともに高まってきている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

過去3年間の学力の経年変化の状況を分析すると、学力が向上してきていることがわかった。これまで継続してきた「基礎・基本の定着」と「学び合い」を重視した授業改善の結果と捉えることができる。一方、自分の考えを表現するために思考することについては課題が残る。互いを認め合い、考えを広げたり深めたりできるような授業改善をしていく。

生活意識においてもこれまでの取り組みの成果がでてきている。「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に肯定的な回答をする児童が増えている。また、「人の気持ちを考えて行動するようにしていますか」という設問に肯定的な回答をする児童も多く、互いの存在を大切に生活できるようになってきたと捉えることができる。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的な取組

| | |
|--------|--|
| 1年 | ○たくさんの言葉に親しみ、語彙を増やしていく。日々の学習における話し方、聞き方の指導を充実させる。 ○具体的操作を多く取り入れた活動的学習を設定し、実感を伴った理解を目指す。 |
| 2年 | ○文を書く機会を増やすことにより、実践的に言語についての知識・理解の定着を図る。 ○数量関係を表現する方法としての式に重点をおき、その説明をする学習場面を多く設定する。 |
| 3年 | ○コミュニケーション能力を高められるよう、友達同士の対話を充実させる。 ○数量や図形などの関係を考える力を高められるよう算数的活動を充実させる。 |
| 4年 | ○各教科において資料を読み取り、関連付ける指導の工夫を行う。 ○自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝える学習を充実させる。 |
| 5年 | ○互いの考えを伝え合い考えを深めたり広げたりする学習の充実 ○基礎を活用し応用問題に取り組み、できるようになった喜びを感じられるようにする。 |
| 6年 | ○体験や実験などを通して習得した実感を伴った知識を実社会で活用できるよう指導を工夫する。 ○事実や根拠から論理的に思考し、構築した自分の考えを述べる学習を充実させる。 |
| 個別支援学級 | ○個に応じた学習に取り組めるようにする。 ○主体的に取り組める学習内容や教材を取り入れる。 |

<全校での取組>

- ・「主体的に学ぶ子」「自尊感情の高い子」を育むための、体育科重点研究による授業づくり。
- ・学習習慣の形成と、国語・算数を中心とした学習内容の基礎基本の定着のために、朝学習の時間を増加し、充実を目指す。
- ・基礎基本の定着と学習意識の向上を目指した、家庭と連携した家庭学習の継続。
- ・調べたことや考えたことを自分の言葉で分かりやすく文章に書く活動の充実。
- ・各教科で学習したことを生かせる問題解決的な学習の場を充実させ、汎用的な学力の向上を目指し授業改善を行う。
- ・互いを認め合い、考えを広げたり深めたりできるような学習場面を多く設定できるよう、授業改善を行う。